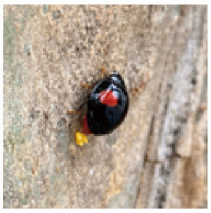
「センス・オブ・ワンダー＝神秘さや不思議さに目を見はる感性」

子どもたちの世界は、いつも生き生きとしていて新鮮で美しく、
驚きと感激に満ちあふれています。

中略

　生まれつきそなわっている子どもの
「センス・オブ・ワンダー＝神秘さや不思議さに目を見はる感性」を
いつも新鮮に保ち続けるためには、
わたしたちが住んでいる世界のよろこび、感激、
神秘などを子どもと一緒に再発見し、
感動を分かち合ってくれる大人が、少なくともひとり、
そばにいる必要があります。

中略



もし、あなた自身は自然への知識をほんの少ししか持っていないと感じていたとしても、
親として、たくさんのことを子どもにしてやることができます。

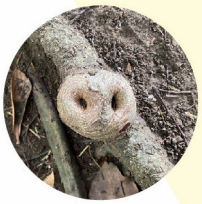
たとえば、子どもと一緒に風の音を聞くこともできます。
それが森を吹き渡るごうごうという声であろうと、家のひさしや、
アパートの角でヒューヒューという風のコーラスであろうと。
そうした音に耳をかたむけているうちに、
あなたの心は不思議に解き放たれていくでしょう。

　雨の日には外に出て、雨に顔を打たせながら、海から空、
そして地上へと姿を変えていくひとしずくの
水の長い旅路に思いを巡らせることもできるでしょう。

中略

台所の窓辺の小さな植木鉢にまかれた一粒の種子さえも、
芽を出し成長していく植物の神秘について、
子どもと一緒にじっくり考える機会をあたえてくれるでしょう。

　子どもと一緒に自然を探索するということは、
周りにあるすべてのものに対するあなた自身の感受性に磨きをかける
ということです。
それは、しばらく使っていなかった感覚の回路をひらくこと、
つまり、
あなたの目、耳、鼻、指先の使い方をもう一度学び直すことなのです。



【センス・オブ・ワンダー】
レイチェル・カーソン